

# 道徳科に求められる評価

出典：令和4年度道徳教育推進研修（第1回）  
（第3講）特別の教科道徳の指導と評価

## 評価の意義

児童(生徒)のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。

学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(1)

## 評価の意義

創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童(生徒)の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

学習指導要領「第1章 総則」の「第3 教育課程の実施と学習評価」の2の(2)

人間としてのよさ  
道徳性そのものを評価



# 道徳教育に関わる評価

評価の公的な文書である「指導要録」の場合

## 行動の記録

- ◇基本的な生活習慣
- ◇健康・体力の向上
- ◇自主・自律
- ◇責任感
- ◇創意工夫
- ◇思いやり・協力 …

十分満足できる状況にあると判断される場合に○印を付ける評価

## 総合所見及び指導上参考となる諸事項

児童生徒の成長の状況を総合的に捉え、記述する評価

教育活動全体で見られた  
児童生徒の道徳的な行為の評価

# 道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

授業のみでは難しいもの

## 道徳科の評価

道徳科の授業で見られた児童生徒の評価

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4





# 道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、**記述式**とすること
- ・個々の内容項目ごとではなく、**大くくりなまとまり**を踏まえた評価とすること
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒が  
いかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます**個人  
内評価**として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより**多面的・多角的な見方  
へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関  
わりの中で深めているか**といった点を重視すること
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える**学習上の困難さ**の  
状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- ・**調査書に記載せず**、入学者選抜の合否判定に活用するこ  
とのないようにつとめること

道徳科の授業における児童生徒の**評価**の視点

授業では、児童生徒の  
**何を、どのように見取る  
べきなのか？**



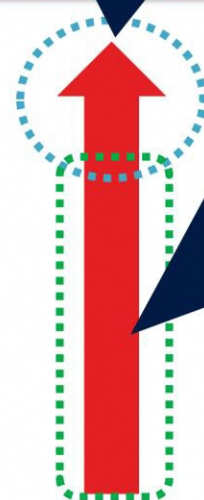
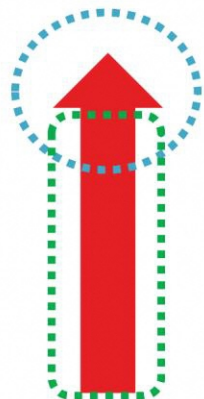
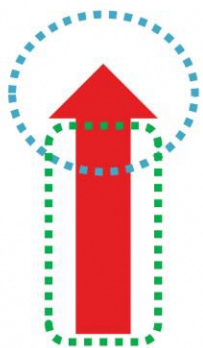
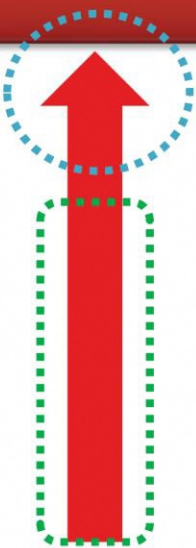
# 道徳科における評価

成長を受け止めて認め、励ます**個人内評価**

道徳的価値の理解を基に、道徳性の様相を育てること

評価規準はなく、達成度は評価できない

道徳科の授業のねらい



評価するのは児童生徒の**学びの姿**

矢印の先端で評価するのではなく、その過程にある学びの姿で評価していく。

## 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと 発展させているかどうか

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている

など

## 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で 深めているかどうか

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている

など



ねらい

道徳的価値の理解を基に、道徳性の様相を育てること

自分とは異なる見方や考え方があることを理解し、互いに分かり合うために、謙虚さと広い心をもって受け止めようとする態度を育てる。

- 道徳的価値がどれだけ理解できたか？
- 道徳性の様相がどれだけ育ったか？

これらを授業で見取することは難しい。

教師はねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行わない。

## 道徳科の授業における児童生徒の**評価**の視点

・ねらいとする道徳的価値について、道徳的な判断力等の諸様相が育っているか。

評価するのは困難

・ねらいとする道徳的価値が理解できたか。

理解させることを目的として評価する、他の教科とは異なる

### 道徳的諸価値の理解に基づく

・児童生徒がより**多面的・多角的**な見方へと発展しているか。

・道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか。

自己の(人間としての)生き方について考えを深める

これらの点を重視し、道徳科の学習活動に着目して評価する。

## 道徳科の授業における児童生徒の**評価**の視点

長いスパンで見えてくる、**学びの姿の成長の様子**を評価する。

35回目

年間の成長の様子

○回目

学期間の成長の様子

1回目

### 道徳的諸価値の理解に基づく

・児童生徒がより**多面的・多角的**な見方へと発展しているか。

・道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか。

自己の(人間としての)生き方について考えを深める



## 評価のための具体的な工夫例

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

書く活動は評価そのものではなく、手段（方法）それを評価に活かすものである。

## これから特に配慮すべきこと

- ・授業中の発言がほとんどない。
  - ・文章表現が得意ではない。
  - ・表情にも表れにくい。
- ・授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておくことが必要
- ・授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要

「困難さの状態」を把握した  
道徳科の指導と評価への配慮

- ・発達障害のある児童生徒
- ・海外から帰国した児童生徒
- ・日本語習得に困難のある児童生徒 等

## 道徳科の指導方法の工夫の例

- ア 教材を提示する工夫
- イ 発問の工夫
- ウ 話合いの工夫
- エ 書く活動の工夫
- オ 動作化、役割演技など  
表現活動の工夫
- カ 板書を生かす工夫
- キ 説話の工夫 等

これらの指導方法の工夫は、子供たちが表現しやすい状況をつくっていると言える。(学習状況の評価にも活かせる。)

## 道徳科の学習状況(学びの姿)の例

道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。 など

書く活動だけでなく、  
授業における「学びの  
姿」の見取りが大切



# 道徳科における評価

個々の内容項目ごとではなく、**大きく**なまとまりを踏まえる

内容項目にこだわらず、  
年間や学期で評価

第1回

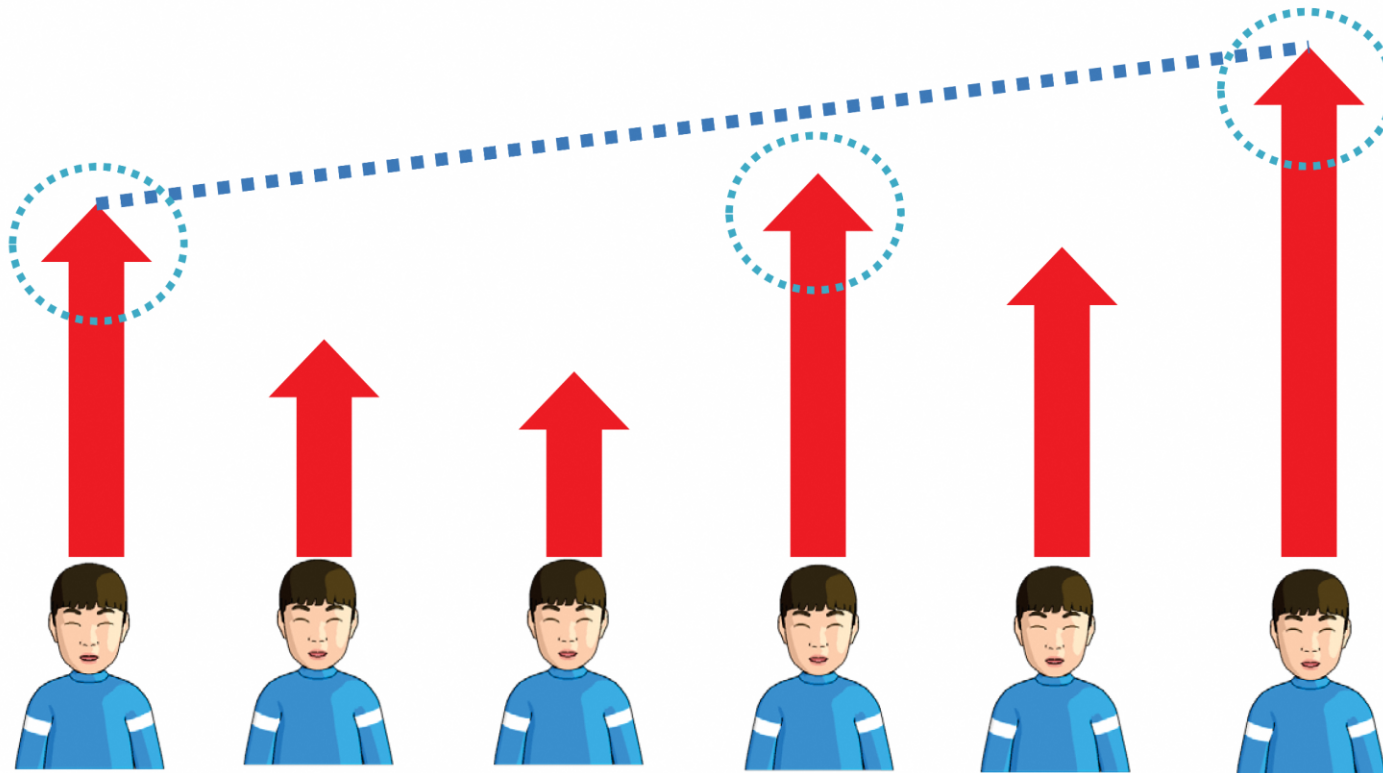
第2回

第3回

第4回

第5回

第6回



学習状況や道徳性に係る成長の様子を**継続的に**把握

## 組織的、計画的な**評価**の推進例

- ・学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を明確にしておく
- ・評価結果について教師間で検討し評価の視点などについて共通理解を図ること
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

妥当性

信頼性

自信

負担感軽減

## 道徳科では、このような評価はしません！

- ・Aさんは、親切で心の優しい子だ。
- ・Bさんは、最後まで諦めずに努力できる子だ。
- ・Cさんは、社会科見学で元気よく感謝の言葉を伝えた。
- ・Dさんは、道徳科で学んだ礼儀を実践に移し、心を込めたあいさつができるようになった。
- ・Eさんは、積極的に手を挙げて発表することができた。
- ・Fさんは、きまりの大切さをノートに書くことができた。

授業でここまでは

他の活動での見取り

行動の事実の表記

## 道徳科は、このような評価のイメージです！

- ・Gさんは、親切とは相手の立場に立つことが大切であると考えていた。
- ・Hさんは、生命の大切さを真剣に受け止めていた。

## 道徳科の授業では、 このような評価を重視しています！

- ・Gさんは、親切とは相手の立場に立つことが大切であると考えていた。

Gさんは、本当の親切とはどのようなことかを自分の立場と相手の立場を比べながら考えていた。

◆一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか

- ・Hさんは、生命の大切さを真剣に受け止めていた。

Hさんは、教材のお話と身近な祖父の死を重ね、生命は唯一無二のかけがえのないものであることを実感していた。

◆道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか

毎時間のこのような評価の積み重ねによって、**大くりの評価**を記録に残すのが指導要録や通知表です。

## これから特に配慮すべきこと

そして、何よりも・・・

そのような児童生徒の評価ができる道徳科の学習が「**考え、議論する道徳**」でもある。

・道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習



# 教師の授業に対する評価の観点の例

ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童（生徒）の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。

エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

第5章 道徳科の評価 第3節 道徳科の授業に対する評価

## 道徳科の授業における評価

### 児童生徒の学習状況を見取る評価の視点の例

- ・道徳的価値のよさや大切さについて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、一つの見方ではなく様々な角度から捉えて考えようとしている。
- ・道徳的価値について、自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えようとしている。
- ・授業で学んだ道徳的価値のよさを感じ、これからの自分の生き方に生かそうとしている。 など

# 道徳科における**評価**の意義

観点

教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童生徒

視点

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

**指導と評価の一体化**



指導は、子供が自らのよさや成長を  
実感できるように工夫するもの

評価は、子供の成長を  
願って行われるもの

子供にとって  
心の成長につながる  
いちばんの評価は…

信頼できる先生に認められること

しっかりと見取り、  
どんどんほめて認める。  
様々な教育効果が！

道徳科は、子どもたちの未来への投資

# 本校の実践、研修を通して

今後の先生方の実践や各校の道徳教育推進につながれば幸いです。

- 毎週の道徳の時間を大切に！
  - ・ 最初から素晴らしい授業を求めなくても、年間35時間の授業の中で、何か一つ「ちょい足し」することで、授業が少しずつ深化し、成長していきます。  
よくばらず、無理せず、日々の実践を積み重ねていきましょう。
- 実践の振り返りが授業力の向上の第一歩！
  - ・ 自身の授業の振り返りはもちろん大切です。ここでも「ちょい足し」して、他の学級や学年と共有しての振り返りにつなげると、授業力は格段にアップします。  
実践を共有し、互いのよさや成果を取り入れていきましょう。